

令和6年8月22日

京都府中丹東農業改良普及センター

京都府中丹西農業改良普及センター

台風10号に備える技術対策

8月22日（木）に発生した台風10号は、日本の南の海上を発達しながら北上し、週明けには西日本に接近、上陸するおそれがあります。

今後の気象情報に注意し、強風や大雨に対する農作物の事前対策を行いましょう。また、被害が出た場合は速やかに対処しましょう。

なお、対策にあたっては、人命第一の観点から、台風通過中や雷鳴が聞こえる間は絶対に作業を行わず、通過後も気象情報を確認した上では場周辺の安全に十分注意し、状況が治まってからの事後対策作業をお願いします。

1 水稻

(1) 通過前

- ① 早生品種で刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。
- ② 早生品種以外では、強風による倒伏や葉の乾燥などを防ぐため深水管理に努めるとともに、稲が水没しないようあらかじめ排水口を調節しておく。

(2) 通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ② 中干しが不十分なほ場では収穫に備え落水し、地耐力を増す必要があるが、早期落水は屑米の多発を招き、低収・品質低下の原因となることから、水管理には十分留意する。
- ③ 成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特に、キヌヒカリ、京の輝きなどの穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。
- ④ 収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくするおそれがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際をみて、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

2 豆類（紫ずきん含む）

(1) 通過前

- ① 豆類は湿害に弱いので、必ず排水路や排水口等の点検を行い、滞水させないようにする。
- ② 黒大豆、紫ずきんについては、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

(2) 通過後

- ① 黒大豆（紫ずきん）では、莖や莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤を散布する。
- ② 浸水や冠水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病害虫防除を行う。特に、小豆については茎疫病等の防除のため殺菌剤を散布する。

3 野菜・花き

(1) 通過前

- ① 明きょや排水路の点検・整備など、排水対策をしっかりと行っておく。
- ② パイプハウスは概ね30m/s以上の風速で大きな被害が発生する。ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

(参考) 園芸ハウス台風対策マニュアル

<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>

また、風に飛ばされたものがハウスに当たって破損する場合は多いので、周囲をよく整理し、風に飛ばされやすいものは片付けておく。

- ③ 露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかりと固定する。直播き、でまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかりと固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。
- ④ 果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。収穫後の側枝のうち、不要な枝やつるを摘除し、風圧を少なくする。

(2) 通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ② 作物への泥のはね上がりが多い場合は、動力噴霧器等を使って洗い流す。
- ③ 液肥（500～1,000倍）の施用や葉面散布を行い、草勢の早期回復を図る。
- ④ 雨風による傷から病原菌が侵入しやすいので、こまめに観察し必要に応じて発生初期に防除する。
- ⑤ 収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直す。
- ⑥ ハウス栽培の場合、湿度が高まり病気が発生しやすくなるので、積極的に換気を行う。通路が湿潤で作業性が悪い場合は、もみ殻等を畝溝に敷き詰めて過剰な水分を吸収させる。
- ⑦ 露地栽培の風よけのべたがけ資材等はできるだけ早く除去する。条間や畝全体を軽く中耕し、通気を良くする。

4 茶

(1) 通過前

- ① 新植、幼木茶園は、風害を受けやすいので、株元に土寄せを行う。特に、風当たりの強い箇所では、杭等に茶樹を結束する。
- ② 傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。また、新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食のおそれがあるため、排水路を整備する。
- ③ 被覆茶園は、被覆資材を吊り線等へ結束する。由良川沿いで氾濫の可能性がある茶園の被覆資材は、泥水による汚損を防止するため撤収する。被覆棚を補強するアンカー等に緩みがないか確認する。
- ④ 輪斑病及び新梢枯死症の発生茶園では、強風により生じた傷から病害が広がるおそれがあるため、予防防除を行う。
- ⑤ 挿し木床では、トンネルのビニールが強風で飛ばされないよう、杭やひもなどで固定するとともに、日よけの被覆資材を開けて、支柱等に結束する。
- ⑥ 製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。浸水が予想される場合は、ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーをあらかじめ落としておく。

(2) 通過後

- ① 茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ② 強風で株元が緩んだ幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③ 土砂が流入した場合は速やかに取り除く。泥が付着した茶園では、葉層内部の古葉に付着した泥は、軍手等の手袋をし、両腕を株の中に突っ込んで株をゆすり、株内に落とす。葉層の上に載った泥は、竹等の棒状のものでつつき落とす。作業時は土ぼこり防止のため、マスク、メガネ（ゴーグル）は必ず着用する。
- ④ 表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。
- ⑤ 炭そ病、新梢枯死症予防のため、適用薬剤を散布する。
- ⑥ 性フェロモン剤（交信攪乱剤）を設置した茶園では、剤が地面に落ちたり、切れたりした場合には、拾って再設置する。
- ⑦ 被覆棚や防霜ファン（配線・センサー等）に不具合や破損がないか確認する。
- ⑧ 製茶工場が浸水した場合は、速やかに排水し、工場内を十分に乾燥させる。ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーを落として、ピットの排水に努めるとともに、モーター類電機設備の点検を行い、安全を確かめてから通電すること。電機設備の整備点検は専門業者に依頼すること。生葉コンテナ等水洗いできるものは十分に水洗いし、乾かしてから通電すること。
- ⑨ 作業時にはヘルメットやゴム手袋を着用し、複数で作業するなど安全に留意する。

5 果樹

(1) 通過前

- ① 防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。
- ② 果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないよう補強しておく。また、棚の揺れ止め補強をしておく。
- ③ ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ④ 棚利用の果樹では、棚線に枝をしっかりと誘引して、枝折れや果実の落下を防ぐ（傷果防止）。
- ⑤ 幼木や若木の主枝先端が折れないように、支柱を添えて固定する。
- ⑥ 強風により落果が予想される場合は、収穫できる樹種（ブドウ等）では、できるだけ収穫する。
- ⑦ 排水対策（明きょ等）をしっかりと行っておく。
- ⑧ 収穫の終了したハウスやトンネルでは、強風にあおられないようビニールを外しておく。
- ⑨ ブドウではべと病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるため、殺菌剤を散布する。
なお、ブドウは収穫時期にあたるため、登録内容の収穫前日数に注意する。

(2) 通過後

- ① 落下した果実は、園外に持ち出して処理する。
- ② 骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ③ 落葉や枝折れが多い場合、被害程度に応じ着果数を制限して樹勢回復させる。また、枝折れの部分は切り直し、病原菌の侵入を防ぐための防除措置を行い、除去した枝は園外に持ち出す。
- ④ 冠水した場合は、速やかな排水に努める。

6 獣害柵の点検

(1) 通過後

- ① 台風の通過後、樹木等の倒伏や土砂流入等で獣害柵が破損しているか、確認し、必要な補修を行う。